

第6学年 国語科 学習構想案





日時 令和5年10月27日(金) 第2校時

場所 5・6年教室

指導者 教諭 小関 留美

I 単元構想

単元名	筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう 「メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために」資料「プログラミングで未来を創る」 (光村図書P189~P200)		
単元の目標	(1) 文の中での語句の係わり方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の特徴について理解することができる。(知(1)力) (2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思C(1)ア) (3) 文章を読んで理解したことに基ついで、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ) (4) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思C(1)カ) (5) 筆者の論の展開のしかたや、表現のしかたに着目して筆者の考えを捉え、言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①文の中での語句の係わり方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の特徴について理解している。(知・技(1)力)	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(思C(1)ア) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついで、自分の考えをまとめている。(思C(1)オ) ③「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(思C(1)カ)	①2人の筆者の文章を読んで自分の意見をまとめることに粘り強く取り組み、単元の学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
メディアを通して自分の思いを伝えるとき、事実と感想、意見の関係に着目し、自分の考えをまとめて相手と共有しながら、社会と生き方について考えようとする児童。			
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
3人の筆者の主張の要旨を捉え、メディアの発達で未来の社会がどうなっていくか想像し、自分がどう生きていきたいか矜持を持ち12才の主張をしよう(卒業文集に掲載しよう)。		筆者の論の展開のしかたや、表現のしかたに着目し、筆者の考えを示しながら、自分の意見をまとめることを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画(7時間取扱い、本時4/7)			
次時間	4C	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
第一次 2		①5年生の既習事項である「メディア」とは何か確認し、資料「プログラミングで未来を創る」から、「未来の社会はどうなっているか」について考える。 ②二人の筆者(池上彰さん・鴻上尚史さん)の説明文を読み、形式段落を捉え、初発の感想から学習の計画を立てる。	★【態①】(発言・記述) ○先行読書している本や筆者である石戸奈々子さんの文章を読んで、未来の社会はどうなっていくのか自分の意見を、単元の学習課題に沿って、友達と交流しようとしている。 ★【知①】(発言・記述・授業支援ソフト) ○形式段落や説明文の型などの文章の構成や特徴を理解している。
第二次 3		③鴻上尚史さんの説明文「大切な人とつながるために」における筆者の思いを伝えるための論の展開のしかたや、表現の工夫を捉える。	【思①】(発言・記述) ○事実と感想、意見などとの関係を押さえ、筆者の主張を伝えるための論の展開のしかたや表現の工夫を捉えている。

	 <p>④池上彰さんの説明文「大切な人と深くつながるために」における筆者の考えを伝えるための論の展開のしかたや、表現の工夫を捉える。(本時)</p>  <p>⑤二つの文章の特徴や共通点を整理し、話し合い、「これからの社会でどう生きていくか」自分の考えをまとめる。</p>	<p>★【思①】(発言・記述) ○事実と感想、意見などとの関係を押さえ、筆者の主張を伝えるための論の展開のしかたや表現の工夫を捉えている。</p> <p>★【思②】(発言・記述) ○二つの文章を読んで、特徴や共通点を整理して共有し、自分の考えをまとめている。</p>
第三次 2	 <p>⑥まとめた内容を基に、グループで共感したことや疑問に思ったことを話し合い、感想を交流する。</p>  <p>⑦先行・並行読書から新たな考えに触れたことについて、自分の考えを伝えて交流する。</p>	<p>★【思③】(記述) ○文章を読んでまとめた自分の感想を共有し、自分の考えを広げている。</p> <p>★【態①】(発言・記述) ○先行・並行読書してきて読み取った筆者の考えから、自分の矜持を強化する意見をまとめることに粘り強く取り組もうとしている。 ※発展的な内容なので評価なし</p>

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
小学校学習指導要領5学年及び6学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 カ (学習指導要領P17~P22) [思考力、判断力、表現力等] C(1) ア・オ・カ (学習指導要領P146~P152)	
教材・題材等の価値	
教材文「メディアと人間社会」は、段落ごとに1つずつメディアの事例を挙げ、従来のメディアが抱えた問題が克服され、人間の思いや欲求とともに発展してきた流れが分かりやすく示されている。 教材文「大切な人と深くつながるために」は、コミュニケーション技術の上達の難しさや必要性、直接的なコミュニケーションの不足や必要性が書かれており、他者との考えにずれが生じやすいテーマであることから、考えを交流する必然性が生まれる文章である。 資料「プログラミングで未来を創る」は、新たな仕事の創出にも触れており、未来を創る主体は、読者一人一人であることを伝える文章である。二つの教材文とは主張に共通点があり、「これからの社会でどう生きていくか」について多面的に捉えるための資料として活用することができる。	
本単元における系統	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 5年生 想像力のスイッチを入れよう ・事例と意見の関係を押さえて読み、考えたことを伝え合おう。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 鳥獣戯画を読む ・筆者の考え方や資料や言葉の使い方の工夫をとらえよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> メディアと人間社会/大切な人と深くつながるために ・筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 今、あなたに考えてほしいこと ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げよう。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 中1 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握すること。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 </div>	
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態) 6年生6名	
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況	
調査内容(説明的文章に関する実態)(R4 NRTの結果より)	正答率
説明文 文章の段落の構成を読み取る	50%
説明文 要点をまとめる(おもしろいことの内容をまとめる)	67%
調査内容(説明的文章に関する実態)(R4 熊本県学力・学習状況調査より)	正答率
文章全体の構成を捉えている。	83%
叙述を基に文章の内容を捉えている。	100%
情報と情報との関係について理解し、文章の情報を理解している。	83%

■国語の学習に関する意識の状況（9月下旬実施）

調査内容（ ）は6月実施のアンケート結果	できる	ややできる	あまりできない	できない
①国語の授業では、「なぜ」という問いを持って取り組むことができますか。	5 (3)	1 (3)	0 (0)	0 (0)
②国語の授業では、「なるほど」という深い学びができていますか。	5 (6)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
③国語の授業では、まとめや振り返りができていますか。	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
④国語の授業では、4Cを意識して取り組むことができますか。	3 (5)	3 (0)	0 (1)	0 (0)
⑤国語の授業では、3人組（ペア）での学び合いができていますか。	5 (6)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
⑥国語の授業で、学習リーダーはできていますか。	5 (3)	1 (3)	0 (0)	0 (0)
⑦国語の授業では、タブレットを使って学びを深めることができますか。	5 (6)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
⑧国語の授業で学んだことや「もっとやってみよう」と思ったことをきょうらっ子ノートに生かすことができますか。	3 (1)	2 (4)	1 (1)	0 (0)
⑨国語の授業と関連する本の読書ができていますか。	4 (2)	2 (3)	0 (1)	0 (0)
⑩目標冊数に向けて読書ができていますか。	4 (6)	2 (0)	0 (0)	0 (0)

■本単元の学習に関する意識の状況

①ア あなたは情報を発信したことがありますか。	はい 2	いいえ 4
理由 は い・・・自分の性別や書いたイラスト。自分の性格。 いいえ・・・考えたこともない。		
イ あなたは情報をどのメディアから取り入れていますか。新聞1 テレビ6 ラジオ0 インターネット6		
理由 総じてテレビでは、天気やニュース、インターネットでは、流行のものや自分の好きなジャンル 新聞は月に1回程度子ども新聞をまとめ読み		
ウ あなたがメディアと付き合う上で気を付けていることはありますか。	ある 6	ない 0
理由 は い・・・ネットの情報が確かか2つ以上の記事を読む。写真であれば合成か疑う。個人情報を書き せない。インターネットゲームでは、マイクをつけない。		
エ 大切な人と深くつながりたいと思いますか。	はい 6	いいえ 0
そのために心がけていること・・・よく聞いて優しくする。傷つけたり嫌われたりしない発言をする。大切な人の優先順位を考える。		
②説明文に書かれている筆者の思いや考えを読むのは好きですか。	はい 5	いいえ 1
理由 は い・・・筆者の考えを読むことで、自分の考えを深めることができる。説明の展開が楽しみ。 いいえ・・・読むことが好きじゃないから。		
③筆者の意見と事例の関係について考えながら読んでいますか	はい 3	いいえ 3
理由 は い・・・意見や事例を頭に入れて読むようにしている。筆者の経験や思いを捉えるようにしている。 いいえ・・・今まで気にしたことがなかった。		
④説明文を読んで、自分の感想や考えを持っていますか。	はい 6	いいえ 0
理由 は い・・・読むことで自分の考えが浮かんでくる。等		
⑤自分と友達の感想や意見の違いを明らかにしたり、互いのよさを認め合ったりしていますか。	はい 6	いいえ 0
理由 は い・・・一人一人の違いも分かるし、考えが深まる。等		

（資質・能力に関して）

学力検査（NRT）の結果を見ると、段落の構成を読み取ることの正答率は50%、要点をまとめることについては67%と低い結果であった。しかし、熊本県学力・学習状況調査においては、1名以外全員正解であった。総じて、NRTテストの正答率が低かったのは、問題文を読むことに時間がかかり、十分に考えることができなかったと考えられる。内容を理解しながら黙読できていないことが要因の一つと考える。

（国語の学習に関する意識に関して）

アンケート結果をみると、②「なるほど」という深い学びを持ち、③まとめや振り返りができていると実感しながら、⑤3人組の学び合いから、⑦タブレットを使って深い学びができていると実感している。6月実施のアンケート比べてみると、①「なぜ」という問いを持って取り組むことや、⑥学習リーダーを務めたりすることに自信が持てるようになった。

しかし、4Cを意識した学習ができているとは言えず、めあてから学習課題を設定する際に、「4Cの何を意識すれば学習課題が達成できるか」という視点を明確にして、その4Cの視点から振り返りをさせる必要がある。

(本単元の学習に関する意識に関して)

自分から不特定多数の場で発信することに関して、抵抗感がある。情報を得る媒体は、全員がテレビやインターネットと答えた。新聞は学校で掲示してあるものがほとんどだった。メディアと付き合っていく中で「個人情報晒さないこと。」や「真実がどうか慎重に確かめること。」に気を付けていることが分かった。また、大切な人とつながりたいという思いが強い。

説明的な文章を学習するにあたって、筆者の意見と事例を意識して読む児童は半数であり、指導する際には、主張や考えと事例は何か考えながら読む練習を重ねていく必要があることが分かった。

3 本校の研究テーマと仮説及び指導に当たっての留意点

「わくわく」が連続し、「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」が生まれる授業
～国語科において、〈りん小版4C〉を育成する「きよらっこ学習」過程の工夫～

【仮説1】

4Cを意識した単元及び1単位時間のデザインを行うとともに、導入から終末を貫く「きよらっこ学習」を工夫すれば、「わくわく」が連続し、「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」が生まれる授業となるであろう。

仮説1について

○4Cを意識した単元及び1単位時間のデザイン

- ・単元全体の流れが分かるよう、学習計画表及び振り返り表を作成する。この学習計画は、単元の初めに「単元ゴールの姿」や「単元を通した学習課題」を基に児童自ら立てさせる。その際、導入と終末の学習内容は提示しておく。
- ・単元の導入において、「これからの社会の中でどう生きていくか」ということについて、筆者の文章を引用しながら、自分の意見をまとめていくことで目的意識を持てるようにする。また、この自分の意見は、自分たちが企画して作成する卒業文集に載せて、今後大人になっても形として残っていくことや多くの方に発信する文章であることを自覚させることで、相手意識を高める。
- ・学習計画を立てた後、その1単位時間の学習活動を達成するには、4Cのどの力を用いて解決することができるのか考え、自分たちで設定した4Cに対して、振り返りをする。

○導入から終末を貫く「きよらっこ学習」の工夫

- ・構成や独特な表現に着目し、筆者の生き方と作品とを重ねることで、作品に対する自分の考えが持てる体験ができるようにする(4C:クリティカルシンキング)。

○児童が主体的に進めるガイド学習の徹底と工夫

- ・3人組の役割(司会者・記録者・発表者)をローテーションで行った上で、きよらっこ学習過程にそって、学習リーダーを中心とし、学習課題に対してのまとめを自分たちでできるようにする。学習課題のまとめは、自分で考えたものをもとに出てきた意見や感想(共感や疑問)から言葉を紡いでいく。

【仮説2】

学んだことを生かした家庭学習や読書活動の工夫をするとともに、学びと連動した言語環境を整えていけば、「わくわく」が連続する授業が、日常的に繋がっていくであろう。

仮説2について

○学んだことを生かす家庭学習の工夫

- ・3人の説明文において、事実と感想、意見を捉えさせるために、教科書の本文に事実だけにサイドラインを引き、授業の学習課題を解決する基礎(土台)を持たせておくようにする。

○学んだことを生かす読書活動の工夫

- ・並行(先行)読書の充実のため、「メディアに関する本コーナー」を設置する。授業や家庭学習で読んだ本については、筆者の考えと自分の考えを区別して書き、授業支援ソフトを用いてみんなで共有する。

○学びの足跡が分かる教室(廊下)掲示

- ・並行(先行)読書の際、筆者の考えと自分の考えを区別して書き授業支援ソフトで作成したものを印刷して本の近くに掲示する。

○人権が尊重される授業づくりの視点から

- ①自己存在感・・・各自の読み取り方を肯定的に受け入れることを大切にする。
- ②共感的な人間関係・・・グループで考えを伝え合ったり、整理したりする場の設定を行う。
- ③自己選択・決定・・・本単元の学びを生かして、家庭学習で「やってみよう」という思いを持たせるようにする。

【板書計画】


事例と筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう
 「メディアと人間社会」 池上 彰さん

きめあて
 筆者はどのようにして、読者に自分の考えを伝えようとしているのか。池上さんの文章の特徴について考えよう。

① 論の展開の構成・尾括型。
 ② 事例の挙げ方・具体例・問いかけ・筆者の考えの繰り返し
 ③ 表現の工夫・「あなた」と語りかけ、会話するよう文章

学習課題
 どんな論の展開の構成や事例の挙げ方や表現の工夫を用いて、筆者の考えを述べているのだろうか。

こ まとめ
 論の展開
 双括型の構成
 事例の挙げ方
 人間の欲求と共発達したメディアの順に事例が挙げられている
 表現の工夫
 書き出しに、「わたしたち人間は、一人では生きられません。」と読み手を引きつける表現を使っている。
 ことで自分の考えを伝えようとしている。
 学習課題に対するふりかえり

ら  **よ**

【ICT活用計画】

- 例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等
- 電子黒板やタブレットを適宜使用し、児童の学習の深まりに役立てるとともに、作業時間の短縮を図る。
 - 自分の考えやグループの考えを授業支援ソフトにまとめ、電子黒板に示すことで、友達の考えと自分の考えとを比較し、考えを広げ、深める手助けとなるようにする。学習リーダーが共有された考えをもとにまとめていくことにも活用する。
 - 家庭学習において、メディアに関する読書をした後には、授業支援ソフトに「読んだ本の事実と自分の感想と意見」を区別して書き提出し、全員でその情報を共有する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

- 例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む
- ・全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査の過去問の中から、関連する問題を解く。
 (説明的文章及び資料活用の問題)
 - ① 説明的文章を読み取り、情報を活用することについての定着の状況の確認
 【全国学力・学習状況調査】 令和3年度国語 2 「面ファスナー」
 【熊本県学力・学習状況調査】 令和4年度国語 5 「くじらをめぐる冒険」
 - ② 本単元で働かせた見方・考え方
 筆者の論の展開のしかたや、表現のしかたに着目し、筆者の考えを示しながら、自分の意見をまとめることを通して、言葉への自覚を高める。このことを生かし、言葉への関心を高めたり、友達と伝え合うことで考えを深めたりしたことを今後の学習につないでいく。